

地域の水源に占める地域用水の位置づけ

Relative Location of Irrigation Water for Regional Use to the Other Water Resources

○野口寧代* 堀野治彦** 三野 徹*

NOGUCHI Yasuyo, HORINO Haruhiko and MITSUNO Toru

1.はじめに 地域用水に関する研究は、多面的機能の実態把握を中心として農業用水単独を対象にしており、農業用水とそれ以外の利用可能水との関係性が論じられることは少なかつた。しかし地域用水整備にあたっては、地域の水源全体を考慮することが必要と考えられる。本研究では、滋賀県湖北町を事例に、地域の水源に占める地域用水の位置づけを示す。

2.調査の概要 湖北町は35集落で構成され、人口は約8,800人である。非農家(76%)と第2種兼業農家(20%)が全世帯の96%を占めている。町総面積は2,908haであり、うち田1,190ha、畑80haである。上水道はすべて簡易水道(普及率100%)で、給水開始は最も古い地区で昭和30年、最も新しい地区で平成3年である。下水道は農業集落排水か公共下水道であり、水洗化率は84.6%である。こうした湖北町で、暮らしの水に関するアンケート調査を各世帯1票の悉皆(2,275世帯)で行った。質問の性質上、回答は「水道ができる以前のことをご存じの方」にお

願いした。2002年8月上旬に湖北町役場、区長を介して配布し、その逆ルートで8月下旬に回収した。有効回答数は1,857票であり、有効回答率は81.6%であった。

3.結果と考察

3.1 用途別にみた水利用 Fig.1は、水道ができる前の用途別の水源である。川・水路の水は、良好な水質をそれほど必要としないが大量を要する用途ほど利用されていた。これに対して地下水は、上水的な用途を中心に使用されていた。Fig.2は、現在について示したものである。予想通り圧倒的に水道水が利用されているが、地下水や川・水路の水も利用されている。地下水は「田んぼの水」を除く他の用途すべてに亘ってある一定割合の利用が残っているが、川・水路の水については、雑用水および農業用水の利用を残すのみとな

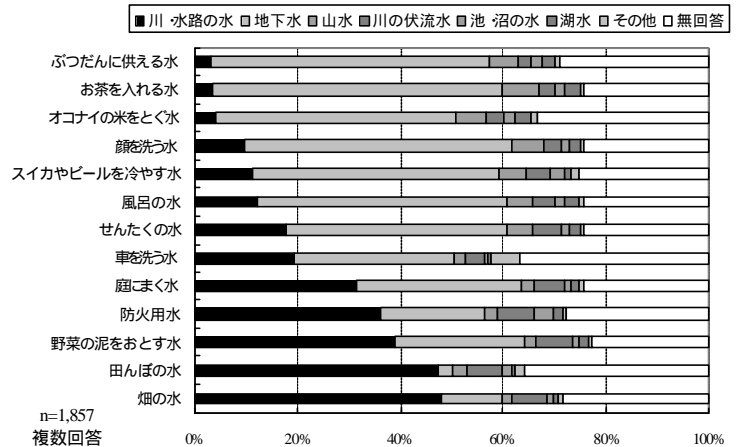


Fig.1 用途別の水源 (水道化前)

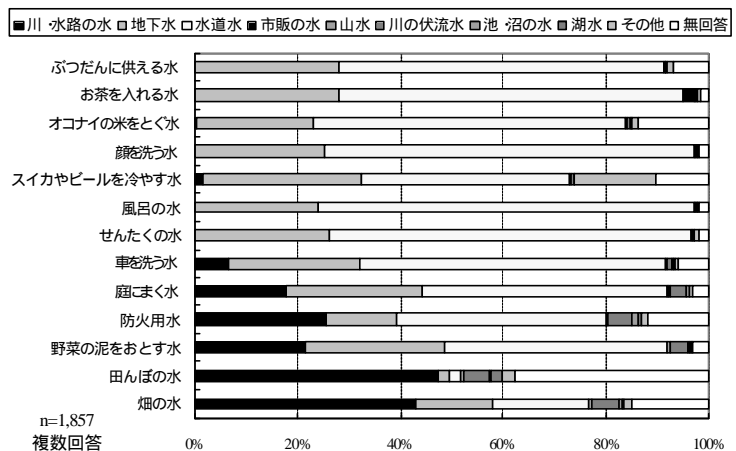


Fig.2 用途別の水源 (現在)

* 京都大学大学院農学研究科, Graduate School of Agriculture, Kyoto University

**大阪府立大学大学院農学生命科学研究科, Graduate School of Agriculture and Biological Sciences, Osaka Prefecture University

Keywords: 地域用水整備, 生活用水, 慣習, 実利性

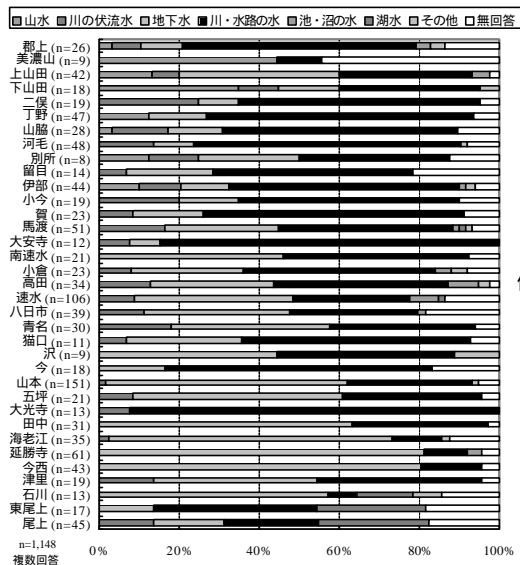


Fig.3 「庭にまく水」の水源（水道化前）

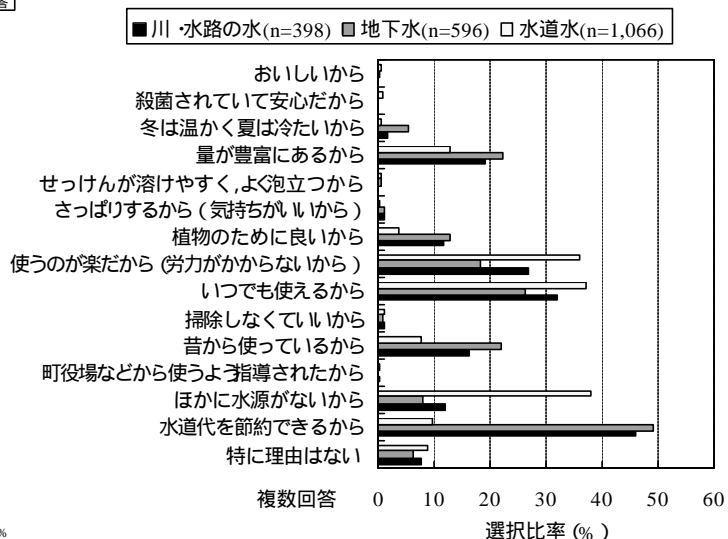


Fig.4 「庭にまく水」にその水を使う理由（川・水路の水，地下水，水道水）

っている。以上より、水道普及前後の利用状況から考えると、川・水路の水利用の多様性は失われ、その主因が水道の普及にあると考えられる。加えて、地下水と比較すると、川・水路の水質悪化とそれに伴う衛生的なイメージの低下が推察される。

3.2 集落別にみた水利用 Fig.3は、雑用目的の一例として「庭にまく水」を水道化前にどのような種類の水で賄っていたかについて、集落別に示したものである。集落の順番は、上から順におおよそ山側から琵琶湖側へ並べている。川・水路の水はほとんどの集落で利用されているが、琵琶湖側の集落（海老江、延勝寺、今西、石川）では利用率が低い。ところで、現在湖北地域を対象に実施されている新湖北農業水利事業では、用水システムの末端に位置する用水不足の集落も、すべからず集落内水路に水を流すことが目標とされている。しかし、在来の水利用を重視すれば、例えば末端に位置する琵琶湖側集落において、集落内水路に必ずしも水を流す必要はないと考えられる。通水するとしても、排水路へ落とされた灌漑用水を反復利用する以外に、地下水などを積極的に利用することが期待される。

3.3 水の利用理由 Fig.4には、川・水路の水、地下水、水道水について、「庭にまく水」にその水を使う理由の選択比率を示した。水道水では、「ほかに水源がないから」という消極的理由が約4割にのぼっている。一方、川・水路の水と地下水では、「水道代を節約できるから」が「昔から使っているから」を上回っている。すなわち、慣習的に使っているというよりも実利性を見いだして使い続けてきたことが窺える。自由回答では「井戸水、池、川の水は無料だった」、「昔はどの家庭でも大量に自噴していた。水道代に多額をかける気持ちになれない」などが散見された。すなわち、“水はタダ”という価値観が依然として残っていると見える。したがって、地域用水の受益に対する費用負担を非農家も含めた地域住民全体に求めるならば、少なくとも水道料金^{*1}よりも低い料金設定をする必要がある。そうしなければ、「水道で賄えるのだから、お金を払ってまで地域用水を使いたくない」、「地域用水は必要ない」という意見も少なからず出てくることが予想される。

4. おわりに 以上より次のようにまとめられる。湖北町での地域水利用は雑用目的が中心である。上流から下流まで一律の目標を据えるのではなく、在来の水利用を踏まえた整備のあり方が必要である。地域用水の費用負担を求めるのであれば、「水道代の節約」を意図して川・水路の水を利用している実態に配慮した料金設定が必要と思われる。

*1 湖北町の水道基本料金は、口径 13mm、水量 10m³ までで 1 カ月あたり 500～800 円。